豊かな自然、歴史と文化のかおりに満ちあふれ、人と人とがあたたかくつながるまち

にしかん

豊かな自然
豊かなこころ
西蒲区

第453号
令和8年（2026年）
2月15日
毎月第1･3日曜日発行

【編集・発行】新潟市西蒲区役所　地域総務課
〒953-8666
新潟市西蒲区巻甲2690番地1
電話　0256-73-1000（代表）
FAX　0256-72-6022

≪ 西蒲区ホームページ ≫
https://www.city.niigata.lg.jp/nishikan/

● 西蒲区データ　人口 51,540人（−94）　世帯数 21,064世帯（−17）　男 24,970人（−45）　女 26,570人（−49）

※1月末現在の住民基本台帳。カッコは前月末比

巻東中学校

２年生は**21ヵ所の事業所で職場体験**を行いました。事前にマナー講習会を行い、自己紹介や質問の仕方などを練習しました。将来の展望や働く意味を実感する貴重な体験になりました。

巻西中学校

１年生は**11ヵ所で農業体験**をしました。作業体験を行うとともに、仕事の喜びや苦労、思いなどを聞き、就労について深く考える貴重な時間となりました。

越前小学校

３年生は**地域の人や保護者と一緒に味噌作り**に取り組みました。昨年度の４年生が作った塩を使い、10月初めにできあがりました。お世話になった地域の人を招待し、全校で「味噌を味わう会」を行いました。

松野尾小学校

６年生は地元で働く人や地元出身の人を講師に招き、**仕事の内容ややりがいについて学ぶキャリア教育授業**をしました。さまざまな職種の人との出会いから自身の将来を考え、世界観を広げる貴重な機会になりました。

巻南小学校

４年生は**鯛車復活プロジェクトに参加し、学校所有の鯛車の修理**を行いました。その様子が姉妹都市ガルベストン市で紹介されました。また、地域の伝統を受け継ぐために、ミニ鯛車を製作し、商店街の店などに置いてもらっています。

学校が元気に！地域が元気に！そしてこどもが元気に！

地域と学校

パートナーシップ事業を紹介します！

第２集

前号（２月１日号）で巻地区以外の学校を紹介しています！

巻北小学校

３年生は「巻の自慢を紹介しよう」という活動で、**西蒲区北国街道まち歩きガイドの皆さんと町探検**を行いました。校歌の歌詞にある「菖蒲塚古墳」や郷土の史跡を見学し、地域の歴史について理解を深めました

漆山小学校

毎週木曜の読書タイムに、**読み聞かせサークル「お話ポケット」の皆さんによる読み聞かせ**を行っています。活動を通して、読書への関心や集中力、想像力を育てています。

新潟市では、学校が地域に開かれ地域と共に歩むことができるように**地域のネットワークづくりや協働事業などを推進し、「学・社・民の融合」による学校教育**を進めています。

推進するための中核となる取組が「地域と学校パートナーシップ事業」です。本事業では、**区内全校に「地域教育コーディネーター」を配置**し、地域と連携・協働したさまざまな活動に取組んでいます。

地域教育コーディネーターとは？
学校を拠点として、学校と社会教育施設、地域を結ぶ職員

問西蒲区教育支援センター（☎0256-72-8560）

西特別支援学校

中学部では、**地域の防災士から段ボールベッドの組立方法や簡易テントの使い方などを学ぶ避難所体験**をしました。実際に体験することで、災害時の生活について理解を深めました。

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは？　区内全中学校区で実施

保護者、地域、学校が一体となり、こどもの成長を支える体制を築き、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を目指した**「地域とともにある学校」づくりを進める制度**です。新潟市では、令和４年度から導入しています。

コミュニティ・スクールを進めるために

保護者や地域の代表、小中学校の教職員などで組織される「学校運営協議会」を開催しています。各学校では、「学校運営協議会」で話し合われた方針に沿ったさまざまな活動を、地域と協働で行っています。

西川中学校区の取組

８月に西川中学校で中学校区の学校運営協議会を開催しました。全体会後に、５つの部会に分かれてテーマごとに協議しました。その際に出た意見を一部紹介します。

心と身体の健全育成部会では、「強調週間の実施期間中は、朝食、睡眠、メディアについて望ましい生活習慣を実践する様子が見られるが、それらをどうやって習慣化するかが課題」「メディア利用の時間の増加が心配だが、電子メディアは生活からなくせないものになっているため、正しい使い方を身につけ、健康被害が出ないように付き合っていくことが大切」などの意見がありました。

他の部会でも問題解決に向けた議論が熱心に行われ、そこで出された意見を参考にしながら、各学校やそれぞれの立場で取組を続けていきます。